

障がいのある児童等の療育や相談体制の整備を

議員 未就学児の発達支援の「気づき」から「対応」への支援は。

健康福祉部長 障害の早期発見から療育につなげるため相談支援や医療機関の受診などを経て、障害児支援利用計画を作成の上、サービスの利用による療育を開始する。

議員 認定心理士や臨床心理士等の専門家の配置等、相談体制を拡充する考えはどうか。常勤を要望。

健康福祉部長 保健センターでは、乳幼児健診時の相談対応のため、臨床心理士を配置。個別相談事業の「すこやか発達相談」では臨床心理士を、「精神発達 2 次健診」では小児科医、臨床心理士の配置を継続。

議員 保育園と児童発達支援センター・事業所との連携はどうか。

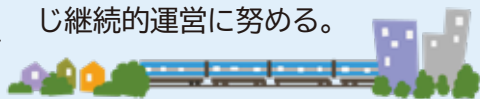
健康福祉部長 保育園では児童発達支援センターあすなろ学園が実施する「巡回相談」を依頼し、障害や発達のお悩みを持つ児童の支援方法について、保育士が助言を受ける。保育園と児童発達支援事業を併用する児童には、「保育所等訪問支援」など児童発達支援センター・事業所の定期的な訪問を通して連携を図る。

にぎわいと活力のあるまちを議員 中心市街地活性化プラン推進における課題について認識は。

市民生活部長 駅西口再開発や駅前通り、中山道の拠点整備を計画的に進める。回遊性と活性化のため、空き店舗解消や既存店舗の伴走型支援等にも力をいれ、中心市街地を下支えする商業や都市機能の強化、担い手の育成等、一体的事業展開に努める。

議員 回遊性のための「にぎわい交流拠点」の役割や連携、推進体制等はどのようなか。

市民生活部長 西口再開発で新たな集約拠点が形成されることに連動し、官民連携の整備事業で中山道エリアに新たな賑わいを創出。西口周辺と駅前通りを結ぶエリアの回遊性を高め、まち全体の活性化・にぎわい創出をめざす。民間機能施設の高い集客力を回遊性に最大限生かす。地域との連携や管理運営事業者によるまち探検等検討するが、企画力・運営能力のある管理運営事業者を令和8年度中に公募し決定する。市民の声を聞きながら連携協力をすすめ、利用状況や事業実施の把握・検証を通じ継続的運営に努める。



市議会議員
武下 涼

●1990年生まれ
●現在、市議2期
教育まちづくり常任委員会委員
蕨市衛生センター議会議員



市議会議員
やまわき 紀子

●わらび生まれわらび育ち
●現在、市議7期
環境福祉経済常任委員会副委員長、原水爆禁止蕨市協議会副会長



市議会議員
鈴木 智

●岩手県出身 (株)第一経営相談所勤務 行政書士
●現在、市議6期
党市議団長、総務常任委員会委員



以下の内容も質問しました

- ◆特別支援教育の推進を
- ◆市立病院へのユースクリニック設置
- ◆保育行政（新年度の申込者数・子育て短期支援事業）
- ◆市立病院の建替え推進
- ◆高齢者の居場所づくり 等

健康を守る
いのちと
市立病院



厳しい環境を乗り越え 移転・建替えの推進を

市立病院会計予算の附帯決議に対する討論で表明した日本共産党市議団の見解（概要）を紹介します

蕨市立病院は年間900件もの救急搬送を受け入れ、採算が難しい分野で大きな役割を担う等、蕨にとって必要な存在であることは言うまでもない。一方で、病院経営の難しさや建築費の高騰が全国的にも問題となっている。

こうした中、基本設計では様々な市民要求を盛り込みながらもコスト低減を図った構造形式を採用し、医療需要の変化に対応できる工夫

なども行われてきた。現場の声を生かした「経営危機打開プラン」では医師や医療スタッフの実践が始まっている。頼高市長の下で、市財政の健全化とともに公共施設の耐震化等も進められてきた。

蕨市議会は、市立病院の重要性と今日の困難な状況の両面から事実即した議論を行うことで、移転・建替え事業がふさわしく進むよう役割を果たすべき。日本共産党市議団も力をつくす決意を表明する。